



未来へ、新たな一歩

今年度は、共学化2年目を迎え、新たな歩みをさらに前へ進める一年となります。学生一人ひとりが充実した学びを実感できるよう、教育や学生支援の充実、地域との連携強化など、さまざまな新しい取り組みを進めてまいります。変化を前向きな力に変えながら、地域に信頼され、選ばれる短期大学を目指して挑戦を続けていきます。



学長 小池 明

ともに学び、ともに育つ

本号が御手許に届く頃、前期末試験が概ね済んで皆さん暫し息抜きのひととき、併せて夏休みの過ごし方の思案中といった处でしょうか。

今号から短大通信は、同窓会員の皆様に向けて発行していた同窓会報「わかば」と合併し、云はばオール上田向けの学内報として新たにスタートを切ることになりました。オール上田というのは、学生諸君、教職員はもとより、同窓会、後援会、附属幼稚園という、学園のステークホルダーの中でも、最も身近で重要、まさに家族のような存在ということです。

さて、学生諸子に更めて言いますが、短大生活は忙しい。乗り切るには生活に緩急を作って心身の休養、リフレッシュをすることが大事です。長期の休暇ゆえに出来ること、前期にやり残したことの補填、後期の準備など夏休みを上手く使って下さい。二年生は短大生活仕上げの思いが一人、卒研は勿論、社会人デビューへの備えに余念が無いのでは？一年生は大学生活を初めて経験し、高校までとはひと味違うという実感を持って戴けたら有難い。教科書にせよ高校までのそれとは本質的に違う——或る学説には反対の学説が存在し得ることを前提に読んで戴きたい。当たり前とされていることも、一旦自分の頭で考えて納得する、或いはこれは違うと思考する。先づそういうものなんだと自らの頭で理解するのが大学の学問の第一歩で、只管暗記して所謂「正解」を回答することが“学問では無い”ことを理解して下さい。

今年は本学が共学化して2年目です。男子学生のプレゼンスが更に大きくなりましたが、そのこと以上に大学という場の多様性が進んだことに喜んでます。様々な人格、経験、能力、考えを互いにつけ合う。世界にはこれだけ価値観や異なる意見が存在することを知る。授業は学生と教員の双方で作上げるものです。質問をすることに躊躇、遠慮は“全く”必要ない。質問することは授業への貢献そのものです。学習支援センターも稼働をしています。大いに活用して下さい。上短は常にあなた方を支えます。

支えと言え、本学で学ぶあなた方には、創基59年の伝統とその間に学んだ一万一千人の先輩がロールモデルとして居られるのです。皆さんにとって保護者の存在が大きいことは言うまでもありませんが、一方、先輩方もあなた方学生の為に今も様々な支援をして戴いています。同窓会の御配慮、御支援で今年は新たに2名の特待生入学が認められました。その他にも、七月にバナナを配って戴いただけでなく陰に陽に御支援を戴いています。これも偏に仲間となる良き後輩を育て、本学から社会に輩出したいという後輩愛・母校愛の顕われです。

私たち教職員からも同窓会、後援会には大いなる感謝を更めて申し上げますが、学生の皆さんもあなた方を支える数々の存在に思いを致し、感謝しつつ存分に学生生活を満喫して下さい。



幼児教育学科Topics

学科紹介

短大での二年間は、自分で選び、自分で決めたことに挑戦できる期間です。その過程で出会うさまざまな人の中に、「自分もこうありたい」と、強く思える誰かがいたら…こんなに幸せなことはありません。

幼児教育学科で学ぶ学生たち一人ひとりには、憧れや尊敬を、自分を動かす力に変え、一步ずつでも日々、前進してほしいと思います。また、その過程で身につけたちからを、自分自身のためだけでなく、子どもや仲間、地域の人々のために活かしてもらえたらと思います。

学生にとって、本科での経験が、自分らしく成長し、ともに生きる誰かの未来をかたちづくることへとつながりますように！



幼児教育学科1年

いいづか つほみ
飯塚 蕾美さん(自由の森学園高等学校出身)

私は、中高時代に参加した体験学習で、様々な保育の現場へ行き、子どもたちと触れ合ったことから保育・幼児教育に興味を持ち、特に自然保育について学びたいと思うようになりました。

上田短期大学には、自然保育コースや「野外活動」という授業があります。また、私は、附属幼稚園の園児と学生の遊びの場・遊びの場でもある、「うらやま」が設備されている点に魅力を感じ、上田短期大学に入学しました。

大学で学んでいく中で、高校時代とは違った難しさの課題に戸惑うこともあります。それ以上にずっと学びたいと思っていた、保育・幼児教育を深く楽しく学べていることに幸せを感じています。なにより、個性的な先生方が親身になって学びをサポートしてくださるのが心強いです。

今後は、基礎的・専門的な知識に加え、自然を活かした保育とはどういうことか等を学び、考えていきたいと思っています。そして、将来は子どもが自身の力で成長できるような援助や見守りを大切に、常に学び続ける姿勢を持った保育者を目指します。



幼児教育学科2年

うちかわ たいよう
内川 太陽さん(丸子修学館高等学校出身)

私は、共学になったことをきっかけに上田短期大学への進学を決めました。自宅から通いやすく、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の二つの資格が取得できることや、ピアノを一人で練習できる環境が整っていることも魅力でした。

入学してからは、先生方の熱意が思っていた以上にすごく、授業や実習でも一人ひとりに丁寧に教えてくださるところが印象に残っています。実習では日誌を書くことが大変で睡眠時間も少なくなりましたが、現場の先生方から直接アドバイスをいただき、自分に足りないことや改善点を知ることができました。

ボランティアでは子どもたちと一緒に遊んだり、名札作りやマシュマロ焼きをしたことが楽しかったです。卒業後は児童養護施設で働きたいと考えています。まだ分からないことも多いですが、一人ひとりに寄り添い、「この人で良かった」と思ってもらえるような保育者になれるよう頑張りたいです。

学生と子ども、保育のすごさが見える部屋 VOL.2 ～保育学が息づく26番演習室～

幼児教育学科 准教授 関 裕子

保育には、二つの専門性がある。

一つは、「養護と教育の一体性(Care & Education)」である。人は、安心できる環境が保障されて初めて、自ら挑戦し、学び、成長することができる。

もう一つは、「環境を通して行う教育・保育」である。小学校以降では教科書がカリキュラムとなるが、乳幼児期では、人・物・空間・時間など環境そのものがカリキュラムとなる。子どもは環境との出会いの中で心を動かされ、「やってみよう」という意欲を育み、自ら成長していく。

26番演習室は、この二つの専門性を学生自身が体験的に学ぶ場である。

まず学生一人ひとりが、自らの「好き」と向き合う。「好き」とは単なる趣味ではなく、その人らしさを支える内的資源であり、再び挑戦へ向かう力である。言い換えれば、「好き」は自己をケアする力でもある。

その「好き」を互いに語り、認め合い、自己発揮する過程そのものが、学生にとってのCare & Educationとなる。この経験を通して、学生は子どもの遊びや生活の意味を読み取る視点を育てていく。

例えば、一歳児の食事場面では、少し先を歩く子どもの姿と、自ら選べる場所に置かれたスプーンという人的・物的環境が、「自分もやってみよう」という意欲を引き出す。26番演習室では、この場面を立体的に再現し、「環境そのものがカリキュラム」である保育を可視化している。

学生一人ひとりの「好き」もまた、人的環境となる。夢中でピアノを演奏する姿や本気で関心を語る姿は仲間を惹きつけ、新たな挑戦を生み出す。その姿に子どもたちが出会ったとき、子どもたちは何を感じ、何を考え、どのような遊びや挑戦へと向かうのであろうか。学生一人ひとりの存在そのものが、子どもにとって素晴らしい人的環境となる。そして、その子どもの姿から学生が新たな気づきや学びを得るという、子どもと学生がともに育ち合う循環が生まれる。

音コーナーでは、音楽を愛する学生のために仲間が壁面装飾を制作した。一人の「好き」が周囲を動かし、人と人とが育ち合う環境へと発展していく。そのプロセスは、子どもと保育者が共主体となって生活や遊びを創り出す保育の営みと重なっている。

26番演習室は、教員と学生が共主体となって環境を創り、互いに学びを深める場である。インクルーシブ教育やレジャ・エミリア・アプローチなど、多様な専門性が交わり、教員や学生の「好き」と専門性が新たな「やってみよう」を生み出していく。この営みこそが、「養護と教育の一体性」と「環境を通して行う教育・保育」という保育学の専門性を体験的に理解するプロセスである。

26番演習室は、学生と教員が共主体となって環境を創り、見えにくい保育学の価値を可視化する部屋である。



総合文化学科Topics

学科紹介

教員の異動について、お知らせします。昨年度末をもって、「デザインの学び」をリードしてくださった須永剛司・柿本悠・岡村綾華の三先生がご退職になりました。また、年度途中で、遠田将大先生が母校の早稲田大学に転出されました。

令和8年度は、山田精一先生・佐藤充紀先生をお迎えし、両先生の専門分野を十分に生かした新しいカリキュラムでの学びを展開しています。



総合文化学科1年

かた おか みづき

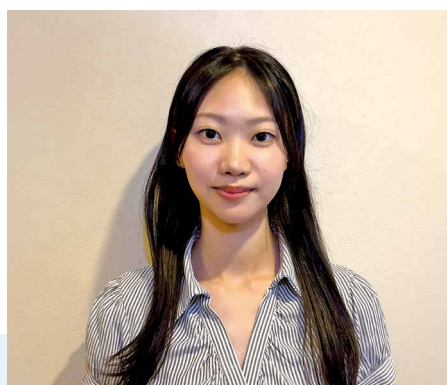
片岡 美月さん(長野清泉女学院高等学校出身)

入学前、私は進路についてずっと悩んでいました。明確な目標がなく、ただ漠然と「このままじゃいけない」と感じていました。

私が上田短期大学に入学した理由は、そんな自分を変えていける環境だと感じたからです。総合文化学科では、心理学やブライダル、司書、ビジネスなど様々な分野を組み合わせながら学ぶことができます。在学中に司書資格を取得する予定はありませんが、少し興味があったため、関連科目の一つを履修しました。他にも、心理学を学んだり、色彩検定に挑戦したりしました。後期には簿記検定の合格も目指しており、本学科での学びを通して、自分の可能性や学びの幅が少しずつ広がっていることを実感しています。

また、私は長野大学の剣道部に所属しており、かけがえのない仲間に出会い、充実した日々を送っています。長野大学の部活やサークルに参加できることも、本学の強みです。

今では「挑戦したい」と思えることが次々と見つかっています。上田短期大学は、私自身を少しずつ変えてくれた場所です。このような場に感謝の心を持ちながら、また新たな挑戦を続けていこうと思います。



総合文化学科2年

おか むら ありさ

岡村 有紗さん(篠ノ井高等学校出身)

私の小学生の頃の将来の夢は、図書館司書になることでした。高校3年生で進路を考えた際、やりたいことを模索する中で、司書資格を取りながら就職について考えていこうと思い、司書課程のある総合文化学科に入学しました。入学前から司書は狭き門だと理解していたため、司書課程が履修できることに加え、幅広い分野を学び就職活動に活かすことができる点が、私にとって上田短期大学の大きな魅力でした。

現在は司書課程を中心に、ホスピタリティ、秘書、英会話、韓国語、中国語などの授業を受講しています。授業で学んだことを活かし、秘書検定2級、韓国語能力試験(TOPIK)2級を取得することができました。

普段の通学時間は、読書や音楽鑑賞、課題を進めるなどして時間を有効に使えるように工夫しています。また、空き時間に図書館で映画鑑賞するのも楽しみの一つです。図書館にはジブリ作品から海外映画まで幅広い作品が揃っているので、みなさんもぜひ利用してみてください。

卒業後は軽井沢のホテル業界へ就職します。これまでに学んできた知識や経験を活かし、社会人としてさらに成長していきたいと思っています。

身に付けた専門性を、地域のために

総合文化学科 専任講師 山田 精一

総合文化学科では日本語学、歴史学・文化学、文学・表現、心理学、ブライダル、図書館司書、ビジネスコミュニケーションの各フィールドを設けています。令和9年度入学生から、学生の皆さんが豊富な地域資源を活用しながら専門性を獲得できるように、各フィールドの内容を今まで以上に深化させていきます。例えば、歴史学・文化学フィールドでは、大学の裏山に築造された古墳や、古代より地元の人々によって信仰されている自然物を対象としたフィールドワークを行う予定です。



学びの場を大学の中だけに留めず、地域社会や企業等、あらゆる機関との連携を活発にしていきます。そうした総合文化学科での学びを通して、変わりゆく社会で生き抜くための力と、専門性を活かして地域貢献できる力を身に付けていきましょう。

AIを活用する社会をみすえて

総合文化学科 専任講師 佐藤 充紀

デジタル庁の資料にある「デジタル社会の実現に向けた重点計画」では、AI駆動型国家の姿が提唱されています。ここでは、AIエージェントの徹底活用を通じた「自律型」「提案型」の行政サービスの実現が目指されています。一人ひとりの住民がAIの助けを得て、必要な支援を手続きの負担なく享受できるとともに、深刻な人材不足に直面する自治体においても、少人数の職員で高品質な行政サービスを持続的に提供できる社会の構築が目標です。この実現には、データの整備や制度のコード化、行政証明書の電子交付環境の整備などが必要であり、重点計画では2030年代半ばに向けた計画だとされています。

このように急速に発展するAIを社会に取り入れていく姿勢を、本学(上田短期大学)でも重要視しています。今年度より「情報と生成AI」を必修科目として導入し、幼児教育学科と総合文化学科の両学科の1年生が、AIを学びのツールとして使いこなすべく、積極的に活用技術を学んでいます。

現在はChatGPTなどの生成AIに対する指示文(プロンプト)の作成技術が中心ですが、来年度以降もさらに内容を深化させ、学びの場に取り入れたいと考えています。私自身、社会において急速に発展するAI技術を常にキャッチアップし、その成果を学生たちに還元していく所存です。

未来共創センター NEWS

学生たちの 地域貢献活動

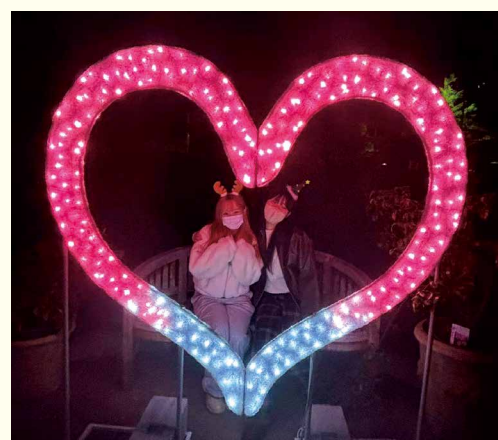
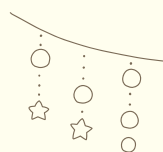
クリーン大作戦

2025年度は、12月下旬に生島足島神社境内の落ち葉拾いを行いました。宮司さんにお祓いをしていただいから、清掃しました。



ウィンターイルミネーション

2025年度のテーマは、「光のラブレター」。イルミネーションの光に乗せて、感謝の気持ちを伝えました。



別所線ガイド

2025年度は、2年生5名で活動しましたが、2026年度は、新たに1年生が6名加入し、乗客に元気を与え、地域の情報発信も行っています。



SDGsうちわ

2026年度は、うэдわっしょいと信州上田大花火大会でのうちわ配りを予定。その前段として、アリオ上田で、うちわづくりのワークショップを行いました。



新任教職員紹介



総合文化学科
専任講師 山田 精一



総合文化学科
専任講師 佐藤 充紀



未来共創センター
室長 山浦 和彦



入試広報課
西島 怜乃



総務課
増澤 直子



法人本部
課長 金森 弘吉



法人本部
福上 聡美



法人本部
斎藤 綾子

後援会だより

会長ご挨拶



令和8年度 後援会 会長
和田 強

保護者の皆様には日頃より後援会活動に深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

新入生は大学生活すべてが新しい経験であり、2年生は就職活動もすでに始まっており、慌ただしくも充実した日々を過ごしているところでしょう。

大学では、高校時代とはことなり、学生自身の自主性がより重んじられる環境です。誰かに言われてから何かをする。とか、教わっていないからできない。というような姿勢ではなく、自らが学ぶべき内容や進むべき道を手繰り寄せられるように発言して行動することが求められます。2年間という大学生活のスピード感は恐ろしいほどあっという間に過ぎてしまいます。

男女共学となり2年目を迎えた上田短期大学は新たなフェーズへと進化の途中でもあります。そして本年は『新しい校歌』も生まれようとしています。

歴史ある大学の新たな1ページを在学生として体験できることは、とてもすばらしく貴重な体験です。学友たちと共に今を大切に一日いちにちを積み上げて、自らの未来を自らの手で切り拓けるよう突き進んでいただきたいと願っております。

そんな学生の皆さんを後援会は見守り支援してまいります。保護者の皆様も引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

後援会総会を書面開催へ変更しました

後援会では、より多くの保護者の皆さまにご参加いただけるよう、本年度より後援会総会を対面開催から書面による開催へ変更いたしました。これにより、ご自宅で総会資料をご確認いただき、オンラインフォームを通じてご意見やご質問をお寄せいただけるようになりました。

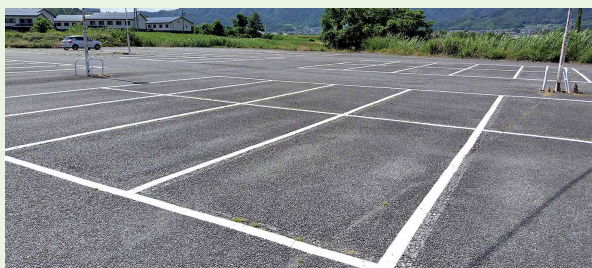
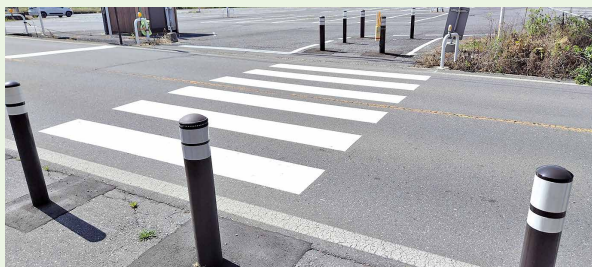
また、メールによる情報発信を充実させるとともに、教職員との個別相談も随時受け付けています。今後も保護者の皆さまとのつながりを大切に、学生の成長とともに支えてまいります。

令和7年度の後援会活動について

後援会では、学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、さまざまな支援を行いました。学生教育研究災害傷害保険への加入をはじめ、学食補助や学生生活に関する支援、学海祭・サークル活動への補助、卒業記念品や卒業生を祝う会への支援など、学生生活全般をサポートしました。

また、令和7年度には、以前から要望のあった校舎と学生駐車場の間の道路に横断歩道が設置され、学生がより安全に通学できる環境が整いました。さらに、学生駐車場の区画線が薄くなっているとのこと指摘を受け、後援会費を活用して区画線の引き直しを行いました。現在、学生の約3割が自動車に通学しており、後援会では、安全な通学環境の整備の一環として、学生が安心して学生生活を送ることができる環境づくりに努めています。

さらに、大学への寄附を通じて教育環境の充実にも協力しました。令和8年度も引き続き、学生と大学を支える後援会活動を進めてまいります。



親から子へ

いま
想いを語る



幼児教育学科2年

むらやまかえで あきこ
村山 楓/母・亜希子

娘は小学生から高校までずっとバスケットボールに打ち込んできました。進路については仲間や家族の話の中で皆で声を出して体を動かすことなどこれまでの経験を生か

せるのではと保育士を目指すことになりました。オープンキャンパスをいくつか回り、ここで学びたいと本人も家族も意見が一致したのが上田短大でした。一人暮らしですが帰省の際は短大の話を楽しそうによく話してくれます。現在は実習の合間に就職試験を受けるなど、とても大変そうですが頑張っています。あっという間の2年間に、素晴らしい先生方や仲間との学生生活を詰め込んで、成長する姿を楽しみにしています。

同窓会長
佐藤 利佳子

同窓会長ご挨拶

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃は同窓会の運営にご理解・ご協力を頂き、ありがとうございます。

時代の変化とともに新しく成長しようと努力している短大の姿があります。それに合わせて同窓会活動も見直し、より学生の皆さんに寄り添っていかれたと考えております。

今年度は同窓会としての特待生奨学金を設けました。また学食にて月1回「わかばの日」とし、食事等を提供していきます。同窓会主催の講演会には会員以外の方にも自由に参加していただき楽しんでいただけるように計画しています。

卒業して何年たとうとも大切な思い出の学び舎。短大をこれからも支えていくためには皆様のご理解とご支援が欠かせません。どうぞ母校のためこれからもよろしくお願いします。

毎月1日は わかばの日

近年、朝食を十分にとれないまま登校する学生も増えているとのことでしたので、同窓会では食事等の補助を計画しました。“できることから始めよう”と、第1回の7月1日は手軽に栄養補給ができる食品としてバナナを用意し、学生の皆さんへ配布しました。「おなか心も満たして元気に学んでほしい。」そんな卒業生の思いを込めて実施した今回のバナナ配布。学生たちの笑顔があふれるひとときとなりました。

同窓会では、令和6年度より学食補助も行っています。今後も卒業生ならではの視点から在学学生を支え、安心して学びに取り組める環境づくりを応援していきます。(次回以降は10月、11月、1月、2月を予定)次はどのようなものがあるか、役員を中心に計画中です。

同窓会奨学金
(推薦特待生Ⅱ)を創設しました

本学同窓会では、学生の皆さんの学びを応援するため、今年度より新たに「同窓会奨学金」制度をスタートいたしました。

この奨学金は、同窓生からの会費をもとに運営され、卒業生が後輩たちの成長を支えたいという思いから実現しました。

同窓会は、卒業後も母校とのつながりを大切にしながら、在学学生を応援するさまざまな活動を行っています。今回の奨学金事業も、その取り組みの一つです。

これからも同窓会は、学生の皆さんが充実した学生生活を送り、それぞれの夢や目標に向かって歩んでいけるよう支援を続けます。



総合文化学科1年

かねこ すずね
金子 鈴音

この度は、同窓会の皆様の温かいご支援により、新たな門出を迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

入学して早くも3か月が経ちました。入学前から楽しみにしていた心理学の授業では、先生が具体例を交えながらわかりやすく説明してくださり、難しい専門用語も理解しながら学びを深めることができています。

また、様々なボランティアにも参加することができています。地元企業とコラボしてワークショップをし、多くの地元の方々と関わる貴重な機会を得ることができました。さらに、以前から挑戦したいと思っていた、別

所線ガイドボランティアにも参加しています。オープンキャンパススタッフとしても、学生主催イベントの企画などに携わることができました。これからも、本学の学生だからこそできることを楽しみながら、全力で挑戦していきたいと思います。

皆様から頂いたご支援を無駄にすることのないよう、2年という限られた時間を大切に、学びやボランティアなど様々な活動に積極的に取り組んでまいります。

上田短大の同窓生応援団を募集します!!

新潟県や長野県中南信にお住まいの方で、学生募集等の応援(アルバイト)をしてくださる方を探しています。ご協力いただける方は、短大事務局長(TEL:0268-38-2352)までお知らせください。

同窓生優遇措置について

本学の卒業生、在学生の子・孫および兄弟姉妹で、入学試験を受験して合格した方の入学に際しては、入学金の全額（250,000円）を免除します。

※推薦特待生・SG特待生・資格特待生の合格者には、同窓生優遇措置は適用されません。

詳細は本学入試広報課までお問い合わせください。

（R7年度実績：15名）

母校への入学

総合文化学科 1 年

まるやま たい き ことは
丸山 泰輝 / 姉・琴羽

私は総合文化学科を卒業後、軽井沢プリンスホテルに就職し、お客様との会話をはじめお客様と関わる時間が大変楽しくやりがいを感じています。

様々な分野を学べることから、私と同じ短大に進学したいと聞いて心配事もありましたが、今は共学になり男女関係なく関わるができるため安心しています。日々、課題など頑張っている姿を見て応援しています。これからも身体に気をつけて頑張ってください。

家族から



この春、娘が私の母校である上田短期大学へ入学しました。入学式の日、娘とともにキャンパスを歩きながら私自身の学生時代の思い出が次々とよみがえり、感慨深い気持ちでいっぱいになりました。

私が上田短期大学で学んでいた頃は、多くの友人や先生方との出会いに恵まれ、勉強だけでなく人として大きく成長することができました。悩みながら将来を考え、仲間と励まし合いながら過ごした日々は、今でも私の大切な財産です。

そんな思い出の詰まった学び舎で今度は娘が新たな一歩をふみ出したことに不思議な縁と大きな喜びを感じています。娘が入学を決めたとき驚きもありましたが、自分と同じ場所で学びたいと思ってくれたことをとても嬉しく思いました。

時代は変わり学ぶ環境や学生生活も私の頃とは違うことでしょう。しかし、人との出会いや学びの大切さは変わらないと思います。娘には多くのことに挑戦し沢山の経験をつみながら自分らしい未来を切り開いていってほしいと願っています。

母と娘、世代を超えて同じ学び舎に通うことができたことに感謝しながら、娘のこれからの成長を見守っていききたいと思います。

幼児教育学科 1 年

すずき たくと さやか
鈴木大空翔 / 母・清佳

上田女子短期大学を卒業し、公立保育園の保育士になって働きながら子育てをしてきました。保育士の仕事楽しい私は、家に帰ると保育園の話をしたり、新しく見つけた絵本を読んだり、季節の制作をしたりしていました。そのような私の働く姿を見て「お母さんのように保育士になってみようかな」と思って上田短期大学への進学を決めてくれたことを嬉しく思います。上田短期大学は現代のニーズにあった授業を行っていて、昨年はオープンキャンパスに行くと充実した内容で感動しました。短大生活はあっという間だと思いましたが、仲間と一緒に学んだり遊んだり、充実した2年間を送ることができるようにサポートしていきたいと思います。



総合文化学科 1 年

かね こ ゆい
金子 結衣 / 母・まさ子



令和8年度 定期総会・わかばの会

○定期総会開催

日時：10月31日（土）13:00～13:30

会場：17番教室

○わかばの会開催 ※詳細はこちら!!

同窓生以外の方もご参加いただけます。
保護者や学生の皆さん、お待ちしております！

令和8年度 上田短期大学同窓会役員名簿

会 長 佐藤利佳子	幹 事 神原久美子	幹 事 柳 沢 里 帆
副会長 天 田 恵 子	〃 長川原みつ子	〃 坂 口 瞳
〃 高藤理恵子	〃 箱 山 至 子	〃 宮 田 萌 香
〃 長 田 真 紀	〃 清 水 絹 子	会計監査 長川原みつ子
会 計 杉 崎 絵 里	〃 安 達 寛 子	新潟支部長 草 間 妙 子
書 記 川 合 美 紀	〃 竹下ゆかり	副支部長 清 水 睦 子
幹 事 長坂美江子	〃 小林亜樹子	
〃 水 沢 妙 子	〃 小林戸寿母	顧 問 保屋野文子
〃 丸 山 弥 生	〃 田 中 千 尋	

上田短期大学同窓会
わかばの会主催

『ココロもカラダも若返る！』

世代を超える「魔法の笑顔」のを見つけ方

日時：2026.10.31（土）13：40～14：40

場所：上田短期大学 16番教室

～興味のある方は、どなたでも参加できます!!～



さとう しげお
講師：佐藤 志穂先生

スマイルライフアカデミージャパン 代表

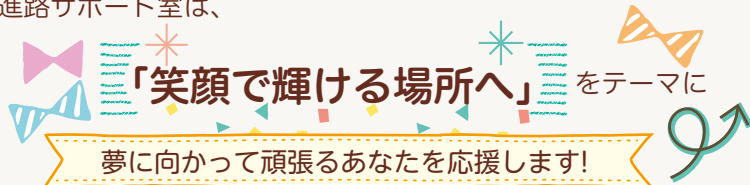
- ・略歴：1977年長野県佐久穂町生まれ。上田女子短期大学幼児教育科卒業。7年半の幼稚園教諭勤務、育児期間中の専業主婦を経て2009年に起業。子どものえがお体育育スクールを展開する傍ら、本場インドで学んだ「笑いのヨガ」を取り入れた独自の体験型講演。
- ・主な実績：日本全国およびタイ、オーストラリアなど海外を含め、累計8万人以上が講演・セミナーを受講。2018年「佐久市男女共同参画推進事業表彰」受賞。2022年より佐久大学信州短期大学福祉学科の非常勤講師として、運動保育やコミュニケーション論の教鞭を執る。
- ・現在：3人の男の子の母親。女性のライフスタイル支援や地域活性、ニーズに合わせた講演活動を精力的に行う。NHK等メディア出演多数。著書4冊。

連絡先 同窓会事務局

tel: 0268-38-2352

mail: wakaba@ueda.ac.jp

進路サポート室は、

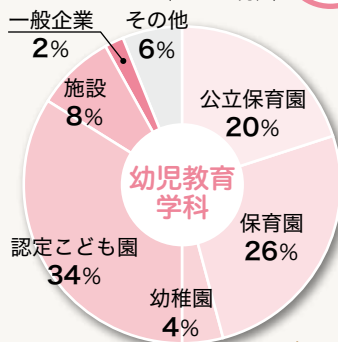


幼児教育学科

令和7年度就職率

97.9%

(R8.5.1 現在)

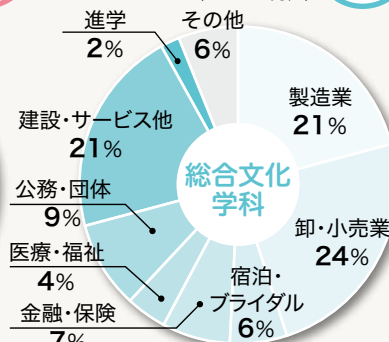


総合文化学科

令和7年度就職率

96.1%

(R8.5.1 現在)



公務員試験合格者

・公務員保育士7名、地方公務員1名 合格

※就職率=就職希望者に占める就職者の割合

公務員試験対策講座

両学科 1年次4月～2年次5月

公務員採用試験(行政・保育士) 合格を目指し、1年次前期から対策講座を開講しています。

1年次

4月～7月

公務員講座A

2年次

9月～1月

公務員講座B

4月・5月

公務員講座C

6月～

試験本番



公務員講座Aで、数学の基礎を徹底的に学び、講座Bからは、公務員試験対策用テキストを用いた専門講師による試験対策に入ります。当講座は、公務員試験対策に限らず一般企業や私立園の採用試験(筆記試験)対策にも繋がります。今年度は、入学生の約半数が講座Aを受講しました。

進路セミナー 総合文化学科 1年次6月～



就職活動に必要な知識やビジネスマナーを身につけることを目的に、毎年6月から進路セミナーを行っています。内容は、業種・職種研究、事業所見学・企業交流会への参加の他、応募書類の書き方、メールの書き方、社会人への身だしなみ講座などを計画しています。今年度も2028卒学生対象のセミナーが始まりました。今後目指す進路の実現に向けて、サポートしていきます。

施設合同説明会 幼児教育学科 2年次6月

保育士資格を活かす職場は、保育園や幼稚園、認定こども園に限られません。児童養護施設、児童発達支援、放課後等デイサービス、乳児院、障がい者施設など、様々な福祉施設の現場においても保育士職が求められます。

今年度は、6月30日に2園(児童養護・障がい者施設)の先生方にお越しいただき、多様な施設での働き方を知る「施設合同説明会」を行いました。施設の種類の異なっても、それぞれの職場で求められることは、利用者さんの気持ちに寄り添うこと。当日は、日々の仕事内容、やりがいや苦労について、お聞きしました。幼児教育学科の2年生は、今後の進路選択に向けて、真剣に耳を傾けていました。

ジョブトーク 総合文化学科 1年次11月

毎年、上田職業安定協会との共催で、上田市近隣の企業を招いた交流会を企画しています。昨年度は27社が来学し、社会に出て働くこと、やりがい、現在の担当業務などについてお聞きし、自身の就職活動・インターンシップ先の選択に役立てました。当日は対話形式のイベントでしたが、リラックスした雰囲気の中で、学生たちは積極的に質問し、情報収集しました。



資格NEWS

幼児教育学科

2年間で取得可能な資格は、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の他、介護職員初任者研修、レクリエーション・インストラクター、幼児安全法支援員、自然体験活動指導者(NEALリーダー)資格、准学校心理士があります。

令和7年度免許・資格取得者

資格試験名	取得者数
幼稚園教諭二種免許状	44
保育士資格	47
介護職員初任者研修	1
レクリエーション・インストラクター	7
幼児安全法支援員	14
自然体験活動指導者	7

総合文化学科

資格報奨金制度を活用し、多数の学生が資格試験にチャレンジし、合格しました。

※資格報奨金制度とは・・・所定の資格(R7年度対象:11資格)に合格すると学長より報奨金が授与されます。今年度は16名の学生が表彰されました。



令和7年度資格試験合格・資格取得者

資格試験名	合格者数
MOS Associate	1
パーソナルキャリアリスト検定	8
日商簿記検定3級	1
秘書検定2級	10
ピアヘルパー	7
ブライダルコーディネーター技能検定3級	11
アソシエイトブライダルコーディネーター認定試験	13
医療事務技能審査試験	12

編集後記

今年も厳しい暑さが続いています。皆さまいかがお過ごしでしょうか。短大でも熱中症対策としてエアコンの適切な使用や体育館の利用制限(WBGTによる)を行っています。夏休みは、旅行やアルバイト、就職活動など、それぞれがさまざまな経験を積み貴重な時期です。暑さで体調を崩しやすい季節でもありますので、こまめな水分補給と十分な休息を心掛け、元気にお過ごしください。



学校法人 北野学園
上田短期大学
幼児教育学科／総合文化学科

〒386-1214 長野県上田市下之郷乙620
TEL0268-38-2352(代)
FAX0268-38-7315
E-mail info@ueda.ac.jp



Instagram



←上田短期大学通信の
バックナンバーはこちら

ホームページ <https://www.ueda.ac.jp>